

司式:長原 光
奏楽:中井喜久子

前奏:「主の御名によりて来る者に祝福あれ」(F. ケープラン)

招詞:わたしは知っている。わたしを贖う方は生きておられ、ついには塵の上に立たれるであろう。(ヨブ19:25)

讃美歌 10:「今こそみな」

罪の告白・赦し 聖霊を求める祈り

朗読聖書①イザヤ書 52. 7-12

◆主は王となられる後)

- 07 いかに美しいことか/山々を行き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え/救いを告げ/あなたの神は王となられた、と/シオンに向かって呼ばれる。
- 08 その声に、あなたの見張り声は声をあげ/皆共に、喜び歌う。彼らは目の当たりに見る/主がシオンに帰られるのを。
- 09 歓声をあげ、共に喜び歌え、エルサレムの廃墟よ。主はその民を慰め、エルサレムを贖われた。
- 10 主は聖なる御腕の力を/国々の民の目にあらわにされた。地の果てまで、すべての人が/わたしたちの神の救いを仰ぐ。
- 11 立ち去れ、立ち去れ、そこを出よ/汚れたものに触れるな。その中から出て、身を清めよ/主の祭具を担う者よ。
- 12 しかし、急いで出る必要はない/逃げ去ることもない。あなたたちの先を進むのは主であり/しんがりを守るのもイスラエルの神だから。

朗読聖書②マタイによる福音書 10. 1-15

◆十二人を選ぶ

- 01 イエスは十二人の弟子を呼び寄せ、汚れた霊に対する権能をお授けになった。汚れた霊を追い出し、あらゆる病気や患いをいやすためであった。
- 02 十二使徒の名は次のとおりである。まずペトロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレ、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネ、
- 03 フィリポとバルトロマイ、トマスと徴税人のマタイ、アルファイの子ヤコブとタダイ、
- 04 熱心党のシモン、それにイエスを裏切ったイスカリオテのユダである。

◆十二人を派遣する

- 05 イエスはこの十二人を派遣するにあたり、次のように命じられた。「異邦人の道に行つてはならない。また、サマリア人の町に入つてはならない。
- 06 むしろ、イスラエルの家の失われた羊のところへ行きなさい。
- 07 行つて、『天の国は近づいた』と宣べ伝えなさい。
- 08 病人をいやし、死者を生き返らせ、重い皮膚病を患っている人を清くし、悪霊を追い払いなさい。ただで受けたのだから、ただで与えなさい。
- 09 帯の中に金貨も銀貨も銅貨も入れて行つてはならない。
- 10 旅には袋も二枚の下着も、履物も杖も持つて行つてはならない。働く者が食べ物を受けるのは当然である。
- 11 町や村に入つたら、そこで、ふさわしい人はだれかをよく調べ、旅立つときまで、その人のもとにとどまりなさい。
- 12 その家に入つたら、『平和があるように』と挨拶しなさい。
- 13 家の人々がそれを受けるにふさわしければ、あなたがたの願う平和は彼らに与えられる。もし、ふさわしくなければ、その平和はあなたがたに返ってくる。

14 あなたがたを迎え入れもせず、あなたがたの言葉に耳を傾けようとしぬ者がいたら、その家や町を出て行くとき、足の埃を払い落とすなさい。

15 はっきり言つておく。裁きの日には、この町よりもソドムやゴモラの地の方が軽い罰で済む。」

祈祷

愛と恵みに富み給う主イエス・キリストの父なる神さま。風香る 5 月第 1 主日礼拝を復活節第 5 主日礼拝としてあなたにお献げすることのできることを感謝申し上げます。

今朝もあなたは私たちを呼びかけ、この場において、またライブ配信を通してあなたの御名を賛美し、あなたが為さってくださった、また為してくださっていることをことに感謝を献げる時を、お与えくださったことを深く感謝いたします。

あなたは独り子イエス・キリストを十字架において私たちのすべての罪の贖いとして犠牲になさいました。御子は罪人として耐えがたき絶望と苦しみとを味わい、ただ一人で十字架を背負い給いました。それは今に生きる私たち一人一人を救いに与らせるためでした。そしてあなたは、その上に復活という信じがたい業を通して、私たちに新しい命をもたらしてくださいました。もはや私たちは古い人間ではなく、新しく創造された者へとあなたによって造り替えられたのです。今や私たちはキリストに仕える者となりました。この大なるあなたの愛と恵みと憐れみとに心から感謝し、賛美を献げます。どうか主よ、私たちをこの新しい命の中で生かしてください。

私たちはこの地上での歩みにおいて、あなたから離れてしまうことがいかに多くあるでしょう。あなたの御言葉に生かされているとは言いつつ、己を神とし、己の欲望にいかにか忠実であるかをあなたはご存じです。私たちの判断も思考も、私たち自身の地上の歩みにおける経験に多くを負っており、あなたの御心から遠く隔たっていることもあなたはご存じです。どうか主よ、そのような私を赦し、あなたのご用に仕える者へと変えさせてください。あなたは私たちの悲惨さに目を留めてくださる方です。どうか私たちの罪を赦し、清い者へと変えてくださいますように切にお祈り申し上げます。

この世においては戦いが絶えず、それによって多くの死が生み出され、悲しみと理不尽さに押し潰されるような日々を過ごしています。特に多くの子供たちが犠牲になり、あなたによって悲しみの中にある人々へ慰めが与えられるようにと祈るばかりです。どうか世界の指導者たちの目を覚まさせ、話し合いによって平和を実現するプロセスへと呼び戻してください。そして私たち自身をも平和を作り出す者へと導いてくださいますように。そして私たち自身をも平和を創り出す者へと導いてくださいますように。

今朝、私たちは御言葉に与り、聖餐の恵みに招かれています。しかし、高齢のため、病のため、仕事のため、その他多くの理由により、ここに集い得ない兄弟姉妹を覚えます。あなたが私たち以上にその一人一人を慰め、恵みと愛とお与えくださいますようにお祈りいたします。

今日の説教者を感謝いたします。佃雅之牧師が聖霊によって御言葉の説き明かしが十分できますようにお力をお与えください。そして聞く私たちの耳を開き、御国の消息を伺い知ることが赦されますように。

あなたが初めより終わりまでこの礼拝をお導きください。日本の多くの

教会、また私たちの教会も幾多の課題を抱えております。どうぞあなたがその解決に向けてお働きくださいますように、折に適う助けをお与えください。

これらの祈りと感謝を主イエス・キリストの御名を通して御前に献げます。アーメン。

讃美歌 446：「主が手をとって起こせば」

説教 「平和を告げる使者」

佃 雅之

主イエス・キリストは今日の箇所直前で、弟子たちにこう言われました。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい。(9:37-38)」この言葉は当時の弟子たちだけでなく、今の教会にも向けられています。救いを必要としている人は大勢いる。しかし、その人に福音を届ける者が足りていないのです。キリストの言葉に従って願い祈る時、何が起ころうのでしょうか。その答えが今日の箇所を示されています。

キリストは弟子たちの中から 12 人を選び、「使徒」として立ててくださいました。彼らは自ら名乗り出たのでも、能力を示したのでもありません。主が選び、ご自分の下に呼び寄せた者たちでした。福音書記者マタイはここで初めて「使徒」という言葉を使っています。「弟子」と「使徒」とは何が違うのでしょうか。「弟子」とは「キリストの傍にいて、その教えを聞き、その生き方を見て主の心を学んでいく人たち」です。一方で「使徒」とは、「キリストの働きを受け継ぎ、福音を宣べ伝えていくために送り出される人たち」です。弟子として学んでいた者が、やがて使徒として遣わされていくのです。

最初に名を呼ばれたのは「ペトロ」でした。主はこれから中心となっていく者を最初に呼び出されたのです。しかし、それはペトロが誰よりも優れていたからではありませんでした。むしろ彼は失敗も多く、主が十字架に向かわれる時には「その人を知らない」(マタ 26:70-74 並行)と 3 度も言うてしまう弱さを持った人でした。「徴税人マタイ」の名もあります。徴税人は同胞から嫌われ、罪人と見なされていた存在です。また「熱心党のシモン」とあります。熱心党の人々は政治的・宗教的に強い情熱を持ち、時に過激な方向へと進むことがありました。さらに「イエスを裏切ったイスカリオテのユダ」と記されています。主は、後にご自分を裏切る者であることを最初からご存じの上で、ユダを使徒の中に加えておられました。この使徒のリストから見えてくるものは、整った人や相応しい人だけではないということです。むしろ様々な過去を持ち、弱さを抱え、時には互いに相容れない背景を持つ者たちが集められているのです。しかし、彼らには一つの共通点がありました。皆、主の憐れみを受け、赦され、支えられ、立ち上がらせてもらった者たちであつたのです。このリストは人間の弱さや過ちを超えて、主によって新しい共同体が造り上げられていくことを示しています。「どのような人であつても主に招かれ、主に用いられていく」という福音そのものの印なのです。

キリストは彼らを送り出すために、説教を語り始められました。私たちもまた、主の日の毎に御言葉を聞き、説教に押し出され、新しい 1 週間の歩みへと遣わされていきます。教会は御言葉を聞くことから始まり、御言葉に押し出されて世界へと向かう。これは昔も今も変わらない主に遣わされる者の歩みそのものです。

キリストはまずこう命じられました。「異邦人の道に行つてはならない。」この言葉は異邦人を退けるためのものではなく、今、弟子たちが向かうべき道

と、今は向かわなくてもよい道をはっきりさせるための言葉です。私たちは教会の働きを考える時、まず何をしたらよいかを一生懸命考えます。けれども一方で、今はなくてもよいことや、主が望んでおられないことを見分けることも信仰の歩みにはとても大切です。人間の計画や勢いに流されて、あれもこれも手を出してしまうと、気づかないうちに御心から離れ、自分の考えだけで歩みを決めてしまうことがあります。教会には牧師、長老、委員会での働きなど、様々な務めがあります。しかし大切なことは、「主が、この私に何を委ねておられるのか」を受け取ることです。無理をして背負い込む必要はありません。主は一人一人に賜物を与え、その人に相応しい形で用いてくださいます。その務めに従って歩む時、私たちは重荷に押し潰されるのではなく、主に用いられている喜びの中で生きることができるのです。もしそこに私たちの思いや都合が先立ってしまうなら、教会はいつの間にか、キリストが中心であるという本質から離れてしまいます。だからこそ教会は、いつも主の言葉に立ち返り、主が与えてくださった務めに夫々が忠実に歩むことを大切にします。教会は一人一人が主に用いられながら立て上げられていくのです。

主は言われます。「ただで受けたのだから、ただで与えなさい。」「ただで」(δωρεάν)というのは「贈り物として」、「恵みとして」という意味です。弟子たちが持っていたものは、すべて主から「ただで」与えられたものでした。癒しの力も、悪霊を追い出すことも、福音を語る使命も、どれ一つとして自分の努力で得たものではありません。すべては主から与えられた「恵み」でした。「主から受けたものをそのまま手渡していく」、それが使徒の務めです。私たちもまた、「赦し」も、「救い」も、「慰め」も、「導き」も、すべて主から「ただで」受けたものです。だからこそ、私たちは「奉仕」も、「愛」も、「祈り」も、見返りを求めず、惜しまず、誇らずに与えることができます。

主はさらにこう命じられます。「金も銀も持っていってはならない。」「わたしがあなたの必要を満たすから、心配しなくて良い」という約束の言葉です。彼らは目に見える備えではなく、最も確かな主が与えてくださる「恵み」の約束に信頼して出て行くのです。私はこの箇所を読むたびに思い出す出来事があります。神学校を卒業する直前のことです。これから一人一人が、いよいよ夫々の教会へと遣わされていく興奮と緊張が入り混じる夜でした。クラスメートの一人が、これまで一度も行つたことがない、知り合いも誰一人いない秋田の教会に赴任することになりました。私は「荷物の準備はできたのか」と声をかけました。すると彼は少しも迷うことなくこう言つたのです。

「私は箸と井と聖書があれば、他に必要なものはありません。」彼の言葉には、イエスさまと教会への深い信頼が満ちていました。主が弟子たちに「何も持っていくな」と言われた時、求められていたのはまさにこのような信頼であつたと思います。自分の力や相応しさなどは、かえって邪魔な荷物になります。必要なのは荷物ではなく、「主の言葉と主への信頼」です。知らない土地であっても、知り合いが一人もいなくても、自分の力では足りないと感じる時であっても、私を支え押し出し、前へと進ませるのは自分の準備や能力ではありません。主が共にいてくださるという確かな信頼です。

主は「何も持っていくな」と言われると同時に、「働く者が食べ物を受けるのは当然である」とも語られています。神はご自身の働きに仕える者を人との交わりを通して養われるのです。ただし、「町や村に入ったら、そこでふさわしい人は誰かをよく調べなさい」とも命じられました。この「ふさわしい」(ἄξιος)という言葉には、「一致する」「調和する」という意味があります。主の福音に調和して

歩むためには、私たちがしがらみや不健全な関係に引きずられないことが求められています。もしそのようなものに心が向いてしまうと、福音の働きが妨げられてしまうことになるからです。だからキリストは「よく調べなさい」と命じられました。自分の働きを守るためではなく、主から託された福音が歪められないように歩むためです。使徒たちが遣わされた地で最初に口にする言葉は「シャローム」、「平和があるように」という挨拶でした。ヘブライ語の「シャローム（**ロイツ**）」とは、「**神の国の到来**」を告げる言葉です。ここで言う「平和」は、争いがないということだけではなく、「**神との関係が回復されることから生まれる深い安らぎ**」を意味しています。「**主にある平和を会おう一人一人に伝え分かち合う**」のが使徒たちの使命、私たちの使命です。しかし、あなたがたを迎え入れず、言葉に耳を傾けない者がいたら、無理にとどまるのではなく「**足の埃を払い落としなさい**」と主は言われます。「**足の埃を払う**」とは、「**この人の行く末は主の裁きにお任せします**」という、主にすべてを委ねる信仰の態度です。使徒たちの務めは「**福音を語り、キリストを証する**」ことにあります。受け入れるかどうかはその人の問題です。拒まれた時に無理に説得しようとしたり、自分の失敗だと落ち込んだり、相手を責めたりする必要はありません。結果は主に委ねれば良いのです。

けれども同時に、福音の使者を拒むことがどれほど重大なことであるかを示すために、主はその家や町を「**ソドム**」と「**ゴモラ**」に喩えておられます。「**ソドム**」と「**ゴモラ**」とは、創世記に記されている町の名前です。これらの町は神の前に大きな罪を重ね、悪が極みに達していました。その結果、「**神の裁きを受け滅ぼされた**（創 19:24-25）」と記されています。そして興味深いのは、滅ぼされる前にこの二つの町が二人の御使いを退けたという点です。この出来事は今日の箇所と深く重なります。「**神が遣わされた者を退けることは、神の招きを退けることと同じ重さを持つ**」のです。私たちに問われているのは、「**与えられた恵みにどのように応答するのか**」ということです。ある人は使徒たちの語る言葉を人間の言葉として聞き流してしまうかもしれません。しかし、「**使徒が語る言葉はキリストから授けられた神の声**」です。その声を響かせるために主は教会を立てられました。教会とは「**キリストの言葉が今も語られ、響き続ける場所**」です。私たちはキリストが使徒たちに託された「**平和があるように**」という言葉、祈りをもって、教会で、家庭で、そして会おう一人一人の方に届ける者として歩んでいるのでしょうか。

私たちが毎日見聞きしているのは、平和が失われている現実ばかりです。身近なところでも、社会でも、国家のレベルでも分裂や対立、戦争のニュースで溢れています。悲しみ、失望、怒り、憎しみ、そのような思いに心を揺さぶられることが日常的にあります。平安を必要としている人は大勢います。イザヤ 52 章にはこう語られています。「**良い知らせを伝える者の足は何と美しいことか。**」私たちもまた、その良い知らせを伝える者として、この世界に遣わされています。神は私たちを神の子としてくださり、この世界に神の愛と憐れみ、そして御力を表そうとしておられます。イザヤはさらにこう伝えます。「**あなたの先を歩むのは主であり、しんがりを守るのもイスラエルの神だから。**」良い知らせを携えて歩み出す者の前を主が進んでくださる。そして後ろからも守ってくださる。私たちの歩みは主に支えられているのです。

キリストは「**収穫は多い**」と言われました。私たちは遣わされていくその場所こそ、主がすでに働いておられ、福音を必要としている人々がいる場所です。だから恐れずに福音を携え、「**平和があるように**」と祈りながら、喜び

をもって夫々の場所へと遣わされて行きましょう。

お祈りをいたします。聖なる神。あなたが今日も私たち一人一人の名を呼び、この所に集め、御言葉によって弟子としての働きを与えてくださったことを感謝します。

主よ、私たちは弱く、恐れや迷いを抱える者たちです。それでもあなたは御言葉を与え、平和の使者として夫々の場へと遣わしてください。どうかあなたから与えられるものに信頼し、自分の力ではなく、あなたの恵みによって歩む者とならせてください。受け入れられる時も、拒まれる時も、すべてをあなたに委ね、忠実な主の僕として歩み続けることができますように。

主よ、この教会に働き手を送ってください。そしてこの教会を用いて、あなたの愛と憐れみがこの世界に表されますように。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

讃美歌:512「主よ、献げます」

聖晚餐 信仰告白(使徒信条) 和解の挨拶

讃美歌:79「みまえにわれらつどい」

献金・感謝(大隈道雄)・主の祈り

天にいらっしゃいます父なる神さま。本日も私たちを礼拝の場に招き、共に御言葉に聞き、祈り賛美する機会をお与えくださいましたこと感謝いたします。この復活節第 5 主日の朝、特に私たちが選ばれ、派遣され、あなたを証する者として立てられているという自覚を改めて持つことが赦されました。どうか私たちがあなたを指し示し、福音を力強くこの世で宣べ伝える者でありますように。私たちがあなたから周りを遠ざけることありませんように、主の福音を宣べ伝え、招く者でありますようにお導きください。そして何より自分自身が癒やされ、自分自身をあなたから遠ざけることがありませんように。

この場を覚えながらここに集いていない者も何人か覚えますけれども、どうかそれらの方々、また出会っていない方々にも、あなたの希望の光によって照らされますようにお導きください。

今、私たちはあなたのご用のためにお献げいたしました。どうかあなたのご用のために清めて用いてくださいますように。

あなたから教えてくださいました「主のお祈り」をもってこの 1 週間の歩みを歩ませてください。「**主の祈り**」…アーメン。

讃美歌:92「主よ、わたしたちの主よ」

派遣と祝福〈司式:主は言われます。「私は誰を遣わすべきか。 会衆:私がここにおります。私を、お遣わし下さい。司式:「父が私をお遣わしになったように、私もあなた方を遣わす」と主は言われる。キリストの平和の使者として行きなさい。〉

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン。

報告:(1)月報5月号発行遅延(6/17予定)。(2)①東京教区北支区婦人部全体集会 6/4木弓町本郷教会、平良愛香牧師講演会、②東京教区全体集会 6/2火洗足教会、説教:洪 徳憲牧師(洗足教会)、講演:横山由里亜(YMCA/ウクライナ避難者プロジェクト責任者)

後奏:「主よ 憐れみ給え」(F.クーブラン)